

## 事務局から

11月8日(日)に、鈴木大裕講演会がありました。研究所も実行委員会に参加し準備を進めました。実行委員会には若い現職教員、大学生、保護者、フリースクールを支える支援員など20名以上の参加がありました。久々に若い人たちと交流し、元気をもらうとともに、自分たちの企画を成功させようとする意欲に感心しました。せっかく集った人たち。この人たちの関心を呼べるようなことができないような研究所の取り組みができればいいなと思いました。

研究所もYouTubeで、映像の発信を始めました。今は「タンポポの研究から見えた地域の環境変化 森田竜義さん」([https://youtu.be/v5Ro1Ig\\_gp0](https://youtu.be/v5Ro1Ig_gp0))「遙かなる『新潟明和騒動』を想う 小日向昭一さん」(<https://youtu.be/vYQK7dAmFEI>)「うなるぞー私たちの食糧」(新潟県の農業の現状と課題) 伊藤亮司さん([https://youtu.be/8B\\_ssaI31wI](https://youtu.be/8B_ssaI31wI))の3本です。ぜひ、うらなってください。

## 編集後記

メールアドレスを研究所に登録している方々に、「北から南から」の原稿募集の案内メールを流しました。すると3名

の方々から応諾連絡に続いて原稿が届きました。大変ありがたいことです。

特集は「子どもと先生が行きたくなる学校へ」です。不登校の数が増え続けています。新学期に先生がいない。産休・育休、病休の代わりの先生が見つからないと教員不足は深刻です。教員の超時間労働などで、教員のなり手がいません。今年の新潟県教員採用試験の中学技術採用予定5人に応募者はいませんでした。また、特別支援学校教員の応募者は、採用数の約半分でした。公教育の崩壊が始まるのではと危惧してしまいます。

鈴木大裕さんの講演から、今教育が抱えている問題の理由と克服する手がかりを得ることができるとは思いません。

鈴木賢治さんからは、教員養成担ってきた経験から、教員不足と教員養成の問題と教員採用の現実について、具体的分かりやすく論じて頂きました。

高橋勇治さんからは、支援学級での実践記録を寄稿していただきました。会員の高齢化もあり、実践記録が少なくなってきました。

小東由男さんは2020年以降の教育関係の市民と共同の取り組みをまとめています。研究所が中心となって開催した「前川喜平講演会」を終えた直後、新型コロナウイルスによる行動規制が始まりました。

これから、市民と共同の取り組みを進めようとしていた研究所にとつては、大きな痛手となったことは残念でなりません。パリコミューンの100年前に新潟で住民自治が行われた「新潟明和騒動」についてまとめた小日向昭一さんの小論を載せました。この事実を知らない新潟市民や県民が圧倒的です。この機に多くの人に知って欲しいと思います。

(和澄利男)

## にいがたの教育情報 No. 143

2025年12月24日発行

編集 にいがた県民教育研究所  
編集委員代表 和澄利男  
編集委員 小野塚恒男 河合靖久 小東由男  
発行 にいがた県民教育研究所  
発行人 小林 昭三  
〒956-0024 新潟県秋葉区山谷町3-2-9  
和澄利男 TEL・FAX 025-369-0671  
振替口座 00640-0-12332  
Eメール kyoiku2nde-m@na.ncv.jp  
印刷所 神林印刷 TEL 0254-66-7959

本誌内容の無断転載を禁じます。